

2025 年 2 月

## 第 34 回日本医療薬学会年会実施報告書

第 34 回日本医療薬学会年会  
年会長 本間 真人  
筑波大学附属病院 薬剤部長

事業名： 第 34 回日本医療薬学会年会  
主催者名： 一般社団法人日本医療薬学会  
年会長： 本間 真人（筑波大学附属病院 教授・薬剤部長）  
会 頭： 山本 康次郎（群馬大学医学部附属病院 薬剤部長）  
年会テーマ： 未来の医療をデザインする薬学・薬剤師の視点  
後 援： 一般社団法人 日本病院薬剤師会、公益社団法人 日本薬剤師会  
一般社団法人 茨城県病院薬剤師会、公益社団法人 茨城県薬剤師会  
一般社団法人 千葉県病院薬剤師会、一般社団法人 千葉県薬剤師会  
一般社団法人 栃木県病院薬剤師会、一般社団法人 群馬県病院薬剤師会  
一般社団法人 埼玉県病院薬剤師会、公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会  
一般社団法人 東京都病院薬剤師会、山梨県病院薬剤師会  
一般社団法人 新潟県病院薬剤師会、長野県病院薬剤師会、日本薬科機器協会  
実施日程： 2024 年 11 月 2 日（土）～4 日（月・祝） 現地開催・LIVE 配信  
2024 年 11 月 21 日（木）～2025 年 1 月 9 日（木） オンデマンド配信  
実施場所： 幕張メッセ 国際会議場・展示場（〒261-8550 千葉県美浜区中瀬 2-1）  
TKP 東京ベイ幕張ホール（〒261-0021 千葉県美浜区ひび野 2-3）  
会場数 口演会場：14 会場  
ポスター会場：1 会場  
展示会場：1 会場

### 1. 年会の趣旨：

2024 年 11 月 2 日（土）～4 日（月・祝）の 3 日間、第 34 回日本医療薬学会年会を幕張メッセ・TKP 東京ベイ幕張ホール（千葉県千葉市）において現地開催および LIVE 配信し、2024 年 11 月 21 日（木）～2025 年 1 月 9 日（木）にオンデマンド配信を実施した。

年会のテーマは「未来の医療をデザインする薬学・薬剤師の視点」と設定した。「デザインとは、常にヒトを中心に考え、目的を見出し、その目的を達成する計画を行い実現する一連のプロセス」と定義され（日本デザイン振興会）、医療では、「患者を中心に考え、治療目標を設定し、目標を達成する治療計画を実施するプロセス」に読み替えられる。このプロセスは、医療を享受する側（患者）と提供する側（医療従事者、医療産業）の双方の合意によって成り立っている。すなわち、医療提供側が良い治療であると勧めても、享受する患者のニーズに合っていないければ、成立し難いものであり、医療提供側に

は、患者のニーズに合った治療選択肢を開発し、提案・実践できる能力と技術が求められている。医薬品による診断・治療をデザインするには、「薬学・薬剤師の視点」が重要である。患者の治療目標を達成するために、必要な医薬品を開発し、その適正使用を推進することに、科学的な根拠を持って取り組むことが薬学と薬剤師の使命であり、本年会が医療における「薬学・薬剤師の視点」を考え共有する場となることを願いプログラムを構成した。

本年会では、患者と医療従事者が適切な薬物治療を選択し、実践できる「未来の医療」を討論するプログラムを企画した。会頭講演、年会長講演に加え、特別講演 3 題、教育講演 2 題、年会企画シンポジウム 7 件、国際シンポジウム 1 件を年会企画とした。公募したシンポジウムからは、応募 134 件のうち 61 件を、一般演題（International session を含む）については、口頭発表 330 題（うち優秀演題候補 30 題）、ポスター発表 1,045 題を採択した。その他、市民公開講座、受賞講演、メディカルセミナー（26 件）、薬科機器を含む展示も企画した（表 1）。また、コロナ禍で途絶えていた懇親会も、4 年ぶりに開催した。参加登録費等は表 2 の通りである。

早期参加登録者並びに後期参加登録者に招待者（74 名）を加え、最終的に参加登録者は 10,749 名であった（表 3）。なお、現地参加者数は 5,623 名、LIVE 配信視聴者数は合計 1,020 名（3 日間のべ人数）、会期後のオンデマンド配信の視聴者数は合計 8,477 名であった。懇親会参加者は 265 名であった（表 4）。なお、運営組織は表 5 の通りである。

表 1. 事業内容

- 
1. メインテーマ「未来の医療をデザインする薬学・薬剤師の視点」
  2. 年会長講演 1 題
  3. 会頭講演 1 題
  4. 特別講演 3 題
  5. 教育講演 2 題
  6. 日本医療薬学会 学会賞・学術賞・奨励賞受賞講演 7 題
  7. 日本医療薬学会 Postdoctoral Award 受賞講演 10 題
  8. 年会企画シンポジウム 7 セッション（29 題）
  9. 年会企画国際シンポジウム 1 セッション（4 題）
  10. International Symposium（国際シンポジウム） 1 セッション（4 題）
  11. 公募シンポジウム 61 セッション（287 題）
    - 1) 日本医療薬学会委員会企画シンポジウム 6 セッション（32 題）
    - 2) その他（他団体共催を含む） 55 セッション（255 題）
  12. 市民公開講座 1 セッション
  13. 一般演題 1,375 題
    - 1) 口頭 330 題（うち優秀演題候補 30 題）
    - 2) ポスター 1,045 題
  14. International Session 21 題
    - 1) Oral 10 題（International Session Award 候補）
    - 2) Poster 11 題
  15. 共催セミナー 28 セッション
    - 1) メディカルセミナー 26 セッション
    - 2) ミニセミナー 2 セッション

16. 日本薬科機器協会 ワークショップ
17. 企業展示 37 社（年会企業展示・リクルート展示・書籍展示）

表 2. 参加登録費等

| 参加登録費 | 正会員      | 非会員      | 学生（会員）  | 学生（非会員） |
|-------|----------|----------|---------|---------|
| 早期登録  | 10,000 円 | 18,000 円 | 無料      | 3,000 円 |
| 後期登録  | 15,000 円 | 23,000 円 | 2,000 円 | 5,000 円 |

海外参加者：10,000円（早期・後期にかかわらず）

市民公開講座：無料 プログラム集 販売費：3,000 円

表 3. 参加者数

|               | 参加登録（有料） |       |        |         |      |    |    |
|---------------|----------|-------|--------|---------|------|----|----|
|               | 正会員      | 非会員   | 学生（会員） | 学生（非会員） | 名誉会員 | 海外 | 招待 |
| 早期登録          | 6,829    | 1,427 | 100    | 31      | 5    | 0  | 0  |
| 後期登録（現地）      | 0        | 0     | 0      | 0       | 0    | 10 | 74 |
| 後期登録（オンデ配信含む） | 1,331    | 896   | 25     | 21      | 0    | 0  | 0  |
| 合計            | 10,749 名 |       |        |         |      |    |    |

表 4. 懇親会参加者数

| 懇親会参加 | 会員・非会員 | 学生（会員・非会員） | 名誉会員 | 小計    |
|-------|--------|------------|------|-------|
| 早期登録  | 221    | 2          | 5    | 228   |
| 後期登録  | 25     | 0          | 0    | 25    |
| 現地支払い | 11     | 1          | 0    | 12    |
| 合計    | 257 名  | 3 名        | 5 名  | 265 名 |

表 5. 運営組織（敬称略・順不同）

|         |        |                 |
|---------|--------|-----------------|
| 〔年会長〕   | 本間 真人  | 筑波大学附属病院        |
| 〔組織委員長〕 | 土岐 浩介  | 筑波大学附属病院        |
| 〔組織委員〕  | 石井 伊都子 | 千葉大学医学部附属病院     |
|         | 石澤 啓介  | 徳島大学病院          |
|         | 伊藤 清美  | 武蔵野大学           |
|         | 大谷 壽一  | 慶應義塾大学病院        |
|         | 木村 利美  | 順天堂大学医学部附属順天堂医院 |
|         | 鈴木 貴明  | 山梨大学医学部附属病院     |
|         | 高田 龍平  | 東京大学医学部附属病院     |
|         | 竹内 裕紀  | 東京医科大学病院        |

|        |        |              |
|--------|--------|--------------|
|        | 富岡 佳久  | 東北大学         |
|        | 外山 聡   | 新潟大学医歯学総合病院  |
|        | 内藤 隆文  | 信州大学医学部附属病院  |
|        | 永田 将司  | 東京医科歯科大学病院   |
|        | 松元 一明  | 慶應義塾大学       |
|        | 三浦 昌朋  | 秋田大学         |
|        | 矢野 育子  | 神戸大学医学部附属病院  |
|        | 山本 康次郎 | 群馬大学医学部附属病院  |
| [実行委員] | 荒木 拓也  | 群馬大学医学部附属病院  |
|        | 井坂 由佳  | 筑波大学附属病院     |
|        | 板垣 文雄  | 帝京大学         |
|        | 一水 翔太  | 筑波大学附属病院     |
|        | 梅澤 理恵子 | 筑波大学附属病院     |
|        | 大神 正宏  | 茨城県立中央病院     |
|        | 小田 絢子  | 明治薬科大学       |
|        | 金子 卓也  | 筑波大学附属病院     |
|        | 金子 宜令  | 筑波大学附属病院     |
|        | 小西 久美  | 筑波大学附属病院     |
|        | 嶋田 沙織  | 筑波大学附属病院     |
|        | 杉 富行   | 明治薬科大学       |
|        | 鈴木 嘉治  | 筑波大学附属病院     |
|        | 住谷 賢治  | 医療創生大学       |
|        | 関 博行   | 筑波大学附属病院     |
|        | 高嶋 泰之  | 筑波大学附属病院     |
|        | 富田 隆   | 国際医療福祉大学三田病院 |
|        | 中島 正人  | 筑波大学附属病院     |
|        | 橋本 直明  | 筑波大学附属病院     |
|        | 平井 啓太  | 信州大学医学部附属病院  |
|        | 平賀 秀明  | 東邦大学         |
|        | 細野 智美  | 筑波大学附属病院     |
|        | 細野 浩之  | 東京大学         |
|        | 前島 多絵  | 帝京大学         |
|        | 向 祐志   | 筑波大学附属病院     |
|        | 百 賢二   | 昭和大学         |
|        | 山崎 伸吾  | 千葉大学医学部附属病院  |
|        | 山梨 義英  | 東京大学医学部附属病院  |
|        | 吉澤 一巳  | 東京理科大学       |
|        | 渡邊 真知子 | 帝京大学         |

## 2. 事業成果

コロナ禍を経て、第 32 回年会から現地開催を再開し、第 33 回年会では全参加登録者 10,313 名の 46%が現地参加であった。本年会においては、全参加登録者 10,749 名のうち 5,623 名（52%）が現地参加しており、全参加登録者数および現地参加者数が共に増加した。本年会のメインテーマを「未来の医療をデザインする薬学・薬剤師の視点」とし、以下のプログラムを企画した。

特別講演 1 では、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所の中村祐輔先生に「デジタル化・AI 化で思いやりに満ちた安全で効率的な医療を！」、特別講演 2 では、筑波大学デジタルネイチャー開発研究センターの落合陽一先生に「デジタルネイチャーと医療：新たな自然と薬学の可能性」、特別講演 3 では、筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構の柳沢正史先生に「睡眠の謎に挑む：原理の追求から社会実装まで」を講演いただいた。

教育講演 1 では、筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学の新井哲明先生に「新規アルツハイマー型認知症治療薬の導入と課題」、教育講演 2 では、中外製薬株式会社バイオ医薬研究部の倉持太一先生に「革新的抗体技術とその応用による創薬プロジェクト創出」を講演いただいた。

年会企画シンポジウムでは、シンポジウム 1：群馬大学医学部附属病院薬剤部の山本康次郎先生と千葉大学医学部附属病院薬剤部の石井伊都子先生に「日本医療薬学会学術会議採択研究：患者主体的医療体制の実現とそれを支えるヘルスリテラシー教育体制を構築」、シンポジウム 2：慶應義塾大学医学部病院薬剤学教室の大谷壽一先生に「薬物消化管吸収を科学する」、シンポジウム 3：医薬品医療機器総合機構審査マネジメント部の石黒昭博先生と東京大学医学部附属病院薬剤部の大野能之先生に「新薬開発と適正な情報提供のための薬物相互作用評価：レギュラトリーサイエンスの医療薬学への貢献」、シンポジウム 4：東京大学医学部附属病院薬剤部の高田龍平先生との熊本大学病院薬剤部城野博史先生に「薬学・薬剤師の視点から近未来の医療を考えよう」、シンポジウム 5：新潟大学医歯学総合病院薬剤部の外山聡先生と東北大学病院薬剤部の眞野成康先生に「薬剤業務向上加算の新設の背景と今後の展開」、シンポジウム 6：和歌山県立医科大学薬学部の江頭伸昭先生と東京理科大学薬学部の磯濱洋一郎先生に「保険診療における漢方薬の役割と新たなエビデンスの創出」、シンポジウム 7：京都大学医学部附属病院薬剤部の寺田智祐先生と秋田大学大学院医学系研究科薬物動態学の三浦昌朋先生に「ファーマコゲノミクス検査の最新動向～臨床実践に向けた課題と展望～」を企画いただき、それぞれ活発に討論いただいた。

年会企画国際シンポジウムでは、東京薬科大学薬学部臨床薬理学教室の鈴木賢一先生と埼玉医科大学国際医療センターの牧野好倫先生に「がん化学療法の未来を変える臨床薬学研究のススメ」を企画いただき、がん医療の質の向上を目指した薬学的視点から発案する研究の重要性や臨床的意義について、他国の薬剤師も交えて活発に討論いただいた。

公募シンポジウム（134 件の応募）は、選考委員の評価により 61 件を採択した。日本医療薬学会委員会企画として、がん専門薬剤師認定委員会、臨床研究推進委員会、薬物療法集中講義企画・運営小委員会、JPHCS 委員会、医療薬学学術第 2 および第 3 小委員会から 6 つのシンポジウムが企画された。また、国

国際交流委員会から International Symposium として、「Designing the Future of Pharmacotherapy」が企画され、アジア諸国における薬物療法の現状等について活発に討論いただいた。

一般演題（1,390題の応募）は、最終的に、口頭発表：330題（うち優秀演題候補30題）、ポスター発表：1,045題の合計1,375題を採択した（不採択：8題、取り下げ：7題）。例年通り優秀演題の選考を行い、候補30題から7題を選出した（表6）。また、International Sessionとして、21題（Oral：10題、Poster：11題）の英語発表が行われ、海外からも発表いただいた。国際交流委員会での審査の結果、International Session AwardとしてOral発表から2題を選出した（表7）。優秀演題およびInternational Session Award受賞者の9名には、年会2日目の懇親会において表彰式を執り行い、表彰状と記念品を授与した。なお、公募シンポジウムの選考評価、優秀演題のノミネート選考、優秀演題の選考にご協力いただきました各種選考委員の皆様（表8）にお礼申し上げます。

その他、「患者と医療者が協働する未来の医療」と題して市民公開講座を企画し、認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML の山口育子先生に講演いただいた。メディカルセミナーが 26 セッション、ミニセミナーが2セッション開催された。

本年会では、コロナ禍後、初めて懇親会を開催した。年会2日目に TKP 東京ベイ幕張ホールで開催され 262 名が参加し、活発に意見交換いただいた。

各種認定の研修として、日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師、がん専門薬剤師、薬物療法専門薬剤師、地域薬学ケア専門薬剤師の単位の発行を、日病薬病院薬学認定薬剤師制度では、セッション毎の単位発行とし、該当セッションについては現地参加、LIVE 配信、後日オンデマンド配信といずれの参加形式でも取得できるようにした。なお、現地参加での単位取得では、当日該当セッション会場にて QR コードを使用した入退室管理を行った。日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度集合研修単位については、研修単位の管理運営上の問題から、現地参加者のみの取得とした。

年会期間中の LIVE 配信については、最大視聴者数が1日目 450 名、2日目 400 名、3日目 170 名であった。2024 年 11 月 21 日（木）～2025 年 1 月 9 日（木）に行ったオンデマンド配信はトラブルなく終了し、配信期間中で視聴アクセスが最も多かったのは1月8日の 12,490 件であった。

本年会の準備にあたっては、会場費の高騰やランチョンセミナー協賛の減少に対応するため、新たな協賛手段の追加（例：幕間動画、リクルートブース展示、ミニセミナー）や、運営会社との予算削減の検討（会場の縮小、ライブ配信会場の縮小、プログラム集の事前送付を取りやめ当日配布による冊数削減）を行った。また、第 32・33 回年会よりも現地参加者が多く見込まれたため、参加者への QR コード準備の事前連絡、ネームカード出力コーナーの複数設置、日本薬剤師研修センター研修単位受付を展示ホールに移設、クロークの拡大、誘導人員の配置などを行った。その結果、当日は参加者が長時間待つことなくスムーズに受付等の対応ができた。日病薬病院薬学認定薬剤師制度の研修単位については、今年から運用開始された研修支援システム（HOPES）に対応するため、早い段階から調査・確認を行い、円滑に準備を進めることができた。

大会の準備段階でなかなか企業協賛が集まらず、当初の計画を変更せざるを得なかったこと、大会初日に、山陽新幹線の運行が止まり、一般講演のポスター発表辞退等もあったことなどの問題もあったが、それ以外は大きな混乱もなく第 34 回大会を盛会のうちに終えることができた。これは、日本医療薬学会理事会をはじめとする役員の皆様、事務局の皆様のご支援と、組織委員・実行委員・年会事務局（筑波大学附属病院薬剤部）・運営事務局（JTB コミュニケーションデザイン）など本年会開催に関わった全ての皆

様のご尽力、またご参加いただいた皆様およびご協賛頂いた企業のご理解とご協力の賜物であり、こころより感謝申し上げる次第である。

表 6. 一般演題 優秀演題賞者

| 演題番号       | 筆頭演者名 | 筆頭演者所属              | 演題名                                                  |
|------------|-------|---------------------|------------------------------------------------------|
| 2-7-O01*-1 | 藤堂真紀  | 埼玉医科大学国際医療センター薬剤部   | 病院と地域薬剤師間のがん患者支援アプリを用いた協働モニタリングシステムの開発               |
| 2-7-O02*-4 | 小島悠輔  | 京都大学医学部附属病院薬剤部      | 体外式膜型人工肺施行中の肺移植患者においてガンシクロビル血中濃度測定を実施した 1 症例         |
| 2-7-O03*-5 | 井上真理  | 慶應義塾大学薬学部           | 診療記録を活用したフッ化ピリミジン系抗がん薬誘発性口内炎に対する AT2 受容体拮抗薬の予防効果の検証  |
| 2-7-O04*-2 | 森彩里穂  | 東京大学医学部附属病院薬剤部      | 中枢神経系(原発)悪性リンパ腫における薬剤性白質脳症のリスク因子の探索                  |
| 2-7-O04*-3 | 神田将哉  | 徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床薬理学 | シスプラチン誘発腎障害予防薬としての SGLT2 阻害薬の作用機序解明                  |
| 2-7-O05*-3 | 今理紗子  | 星薬科大学生体分子薬理学研究室     | 漢方便秘薬；麻子仁丸における配合生薬の役割解析と治療薬としての特徴                    |
| 2-7-O06*-4 | 石田智滉  | 高知大学病院薬剤部           | 心不全患者における服薬アドヒアランス評価スコアの作成—非代償性心不全患者を対象とした前向きコホート研究— |

表 7. International Session Award 受賞者

| 演題番号  | 筆頭演者名       | 筆頭演者所属                                                                          | 演題名                                                                                                            |
|-------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| IO-04 | Yukiko Ohno | Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Keio University                     | Extraction of diseases and symptoms from patients' complaints using natural language processing system.        |
| IO-08 | Io Hasebe   | Department of Clinical Pharmacology and Therapeutics, Kyoto University Hospital | Antidepressant Use and the Risk of Diabetes Mellitus in Patients with Depression: A Nested Case-Control Study. |

表 8. 優秀演題 1 次・2 次選考・公募シンポジウム審査をお引き受けくださった先生

---

荒木 拓也 群馬大学医学部附属病院  
池末 裕明 名古屋大学医学部附属病院  
板垣 文雄 帝京大学  
木村 利美 順天堂大学医学部附属順天堂医院  
齋藤 秀之 熊本大学病院

|    |     |              |
|----|-----|--------------|
| 菅原 | 満   | 北海道大学病院      |
| 鈴木 | 嘉治  | 筑波大学附属病院     |
| 竹内 | 裕紀  | 東京医科大学病院     |
| 寺田 | 智祐  | 京都大学医学部附属病院  |
| 土岐 | 浩介  | 筑波大学附属病院     |
| 富岡 | 佳久  | 東北大学         |
| 富田 | 隆   | 国際医療福祉大学三田病院 |
| 中村 | 克徳  | 琉球大学病院       |
| 中村 | 智徳  | 慶應義塾大学       |
| 平井 | 啓太  | 信州大学医学部附属病院  |
| 細野 | 浩之  | 東京大学         |
| 向  | 祐志  | 筑波大学附属病院     |
| 百  | 賢二  | 昭和大学         |
| 山口 | 浩明  | 山形大学医学部附属病院  |
| 山崎 | 伸吾  | 千葉大学医学部附属病院  |
| 山梨 | 義英  | 東京大学医学部附属病院  |
| 吉澤 | 一巳  | 東京理科大学       |
| 渡邊 | 真知子 | 帝京大学         |

(敬称略・五十音順)

---